

学校だより

令和4年度
三方小学校だより第9号
12.17(発行者千田)

12月8日に「今年の漢字」が発表され、「戦」の文字が選ばれました。ロシアのウクライナ侵攻により戦争の恐ろしさを目の当たりにした、円安や物価高で生活上でも戦いを強いられた、サッカーワールドカップやプロ野球などスポーツでの熱戦が注目を集めたことなどが理由だそうです。

三方小の4月8日からの今日までの学校生活を、私が漢字一文字で表すなら「和」です。私は中学校勤務が長かったこともあり、小学校の子ども達の屈託のない笑顔を見ていると、心が「和らぎ」ます。明るく、素直な子どもが多く、日々子ども達と接していると、とても「和やか」な気持ちになります。

新型コロナに対する不安、統合に対する不安などを抱える中、子どもたちは学習に運動に精一杯頑張っていたように思います。欠席は少ないし、友だちと仲良く学校生活を送っているし、喧嘩や言い争いはほとんど見かけないし、「戦争」の反対言葉である「平和」な学校だと感じています。ただそれは私の主観であり客観性がありません。そのため、児童、保護者、教職員のアンケートをとり、より客観的に学校の様子を分析したのが、次ページ以降に示した学校評価シートです。

年度当初に立てたスクールプランの実現に向け、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身につけた子を育成するため、数値目標を立て、職員で力を合わせて頑張ってきました。今年度は統合初年度ということもあり、『徳(豊かな人間性)』に重点を置いてとりくんできました。児童にとったアンケートの結果を見ると、「学校が楽しい」と肯定的な回答をする児童が97%いました。この項目は昨年度より3%上回っていますし、全国平均より17%上回っています。保護者アンケートにおいても「お子さんは楽しく学校生活を過ごしていると感じましたか」の項目は、97%が肯定的な回答でした。また、児童アンケート「みんなで何かをするのは楽しいですか」の項目は、100%の児童が肯定的な回答をしていました。「休み時間に体を動かす遊びや運動ができましたか」の項目は96%の児童が肯定的な回答をしており、休み時間を確保して子ども同士が触れ合える時間を確保したのがよかったのかもしれない。

全国的に不登校が増加する中、三方小は現在も不登校0が続いています。ただこの9ヶ月間には、登校を渋る子や友だち関係で悩む子などもありました。そんなときは、職員間で連携し、保護者と連絡を密にとり合う中でさまざまな問題も解決することができました。「三方小143人 みんな笑顔」を目標にして、三学期も頑張っていきたいと思います。

保護者アンケート自由記述より

- ・登下校時のマスク着用は、必要ないのではないか？
- ・登校時、集合時間になっても誰もいないことが非常に多いです。
- ・統合後、三方小と明倫地区との関わりがあまり感じられません。学習において、明倫地区の要素も取り入れていただければと思います。
- ・4年生は現在2クラスだが、来年度はどうなるのか教えてほしい。
- ・委員会活動は、あくまでも子ども主体で、先生方には見守り支えてやっていただけるとありがたいです。etc

保護者の皆様からいただいたご意見の中には、すぐに対処したものもありますし、三学期や次年度の課題として検討すべきこともありました。家庭地域学校協議会で出された意見や感想についても、今後説明していきたいと思っております。



1月

10日(火) 始業式[下校 11:30]

11日(水) 給食開始

25日(水) 三方中新1年生見学会[6年]

26日(木) 学校公開日

(1) 学力向上部会

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ		
自ら学び、進んで表現する子の育成	主体的で対話的な深い学びの推進	自分の考えを持ち、伝え合い、高め合う指導法の工夫に努める。	(取り組み指標)…教員 主体的で対話的で深い学びになるように工夫する。	主体的で対話的で深い学びになるように工夫することが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%			
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上	(満足度指標)…児童 授業に主体的に取り組むことができる。	授業に主体的に取り組むことが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 98%		
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上	ICT機器を効果的に活用し、よく分かり、楽しい授業の工夫に努める。	(取り組み指標)…教員 日々の授業で、学習内容が分かりやすくなるように工夫して指導している。	授業で、学習内容が分かりやすくなるように工夫することが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%	
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上		(満足度指標)…児童 授業の内容が理解できる。	授業の内容が分かりますか A 分かる。 B どちらかといえば分かる。 C どちらかといえば分からない。 D 分からない。	A+Bが 99%	
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上		三方小 令和3年度 95%	(取り組み指標)…教員 児童が読書習慣を身につけるために指導・支援を実施することが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 93%	
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上		(成果指標)…児童 進んで本を読むことができる。	読書をするとか A 好きだ。 B どちらかといえば好きだ。 C どちらかといえばきらいだ。 D きらいだ。	A+Bが 92%	
	(目標指標) A+Bの合計が80%以上	三方小 令和3年度 84%	(満足度指標)…保護者 お子さんは読書の習慣が身についている。		あなたのお子さんは、家庭で読書に取り組むことが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 61%		
	(目標指標) A+Bの合計が70%以上							

【成果と課題】

(主体的で対話的な深い学びの推進)

・「自分の考えを持ち、伝え合い、高め合う指導法」に関しては、おおむね良好な結果で、児童は意欲的に授業に取り組み、おおぜいの友達とのやりとりを通して学び合い、自身の考え方を大事にしながら努力できているようで、着実な取り組みにより力がついていると考える。ただ、教師側の意識としてはAが少なくまだ途上という捉えであるようである。今年度は統合による新スタートという点もあり、まずは児童相互の関係づくりからの長い取り組みであったことを踏まえると、ほぼ全員の児童が学校生活を楽しく過ごし学習に意欲的に取り組んでいる姿に一定の成果を見てよいと思う。ただ、「主体的・対話的で深い学び」を通して獲得していくべきこれからの時代の児童に求められる力を念頭に、授業構成や指導法等について今後さらに工夫を重ねていくことが重要であると考える。

・「よく分かり楽しい授業」に関しては、全体として高く、特にかなりの児童がAと答えている点は大変良い状況である。ICT機器の活用もタブレット活用元年からより習得が進み、効果的な活用で理解度の向上につながられていると考える。一方でICTの可能性からすれば、効果的な教材提示の仕方や、コミュニケーションツールとして相互に対話的な学びの手段としてまだまだ活用の余地があり、研修を進めながら今後の発展的な活用を図る必要があると考える。

(読書活動の推進)

・「読書活動の推進」に関しては、「進んで本を読むことができる」と答えた児童の割合が多く、一定の成果を見てよいと思われる。コロナ禍の制約からも少し落ち着きを見せ、家庭読書での協力や読み聞かせ活動の多様な形をとることができるようになったことも、読書の喜びの高まりにつながられたのではないかと考える。ただ、家庭での読書量や読書習慣に関しては、まだ不十分との捉えが見受けられる。テレビやネット、ゲームなど他の媒体も含めて家庭での時間の過ごし方を再度児童に考えさせながら、家庭との連携のもと、今後家庭でも進んで本を読む児童にしていくための方策を考えていきたい。

(2)豊かな心情部会									
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ			
互いを認め合い高め合える子の育成	◎元気な挨拶と創造的協働活動の充実	・個に応じた支援体制を整備し、いじめや不登校の未然防止に努める。	(取り組み指標) …教職員 日々の教育活動で児童が楽しく学校生活を送れるよう工夫する。	日々の教育活動で児童が楽しく学校生活を送れるよう工夫することが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%				
			(目標指標) A+Bの合計が90%以上	(成果指標) …児童 児童は楽しく学校生活を送っている。	学校へ行くのは楽しいですか。 A 楽しい B どちらかといえば楽しい。 C どちらかといえば楽しくない D 楽しくない。	A+Bが 97%			
			(目標指標) A+Bの合計が90%以上	令和4年度 全国 85% 令和3年度 三方小 95%	(成果指標) …児童 児童は友達と仲良く学校生活を送っている。	みんなで何かするのは楽しいですか。 A 楽しい B どちらかといえば楽しい。 C どちらかといえば楽しくない D 楽しくない。	A+Bが 100%		
			(目標指標) A+Bの合計が90%以上	(満足度指標) …保護者 お父さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じる。	お父さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じましたか。 A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる。 C どちらかといえば当てはまらない。 D 当てはまらない。	A+Bが 97%			
	○人権教育、児童会活動の充実	・児童会活動や学校行事において、児童が主体的・創造的に活動できる場を設定し、多様な意見を互いに尊重しながら協働できるようにする。	(成果指標) …児童 児童は友達と仲良く学校生活を送っている。	(目標指標) A+Bの合計が85%以上	(満足度指標) …保護者 お父さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じる。	お父さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じましたか。 A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる。 C どちらかといえば当てはまらない。 D 当てはまらない。	A+Bが 97%		
				(目標指標) A+Bの合計が90%以上	(取り組み指標) …教員 進んであいさつする指導や活動を行う。	進んであいさつする取り組みが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%		
				(成果指標) …児童 進んであいさつができる。	(目標指標) A+Bの合計が100%	(満足度指標) …保護者 あなたのお父さんは進んであいさつをしている。	あなたのお父さんは、家や地域であいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 92%	
				(目標指標) A+Bの合計が80%以上	令和3年度 三方小 93%	(満足度指標) …保護者 あなたのお父さんは進んであいさつをしている。	あなたのお父さんは、家や地域であいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 92%	
				(目標指標) A+Bの合計が80%以上	(取り組み指標) …教員 進んであいさつする指導や活動を行う。	進んであいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 92%		
				(目標指標) A+Bの合計が80%以上	(満足度指標) …保護者 あなたのお父さんは進んであいさつをしている。	あなたのお父さんは、家や地域であいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 92%		

【成果と課題】

(互いを認め合い高め合える子の育成)

・「学校へ行くのは楽しい」と肯定的に答えた児童が97%と、昨年度の数値や全国の数値を上回った。今年度は統合初年度ということもあり、児童が前向きに学校生活を送ることができるように注意を払っていたが、昨年度に数回行った交流授業の成果もあって比較的スムーズに進めることができた。また、学校行事においても児童の主体的な活動となるようにしたことで、生き生きと活動する様子がみられた。そうした成果もあって、「みんなで何かをするのは楽しい」という項目では児童全員が肯定的な回答であった。一方で、「学校へ行くのは楽しい」という質問に対して「楽しくない」と答えている児童もあり、この部分を無視することはいきない。毎月の学校生活アンケートや、1学期と2学期の2回行っている担任による教育相談週間などを通して、児童一人ひとりの実態把握と教員全体での共通理解を行い、問題の早期対応ができるように今後も注意していきたい。

・「進んであいさつができた」と肯定的に答えた児童は92%と、年度当初の目標を大幅に上回ることができた。また、保護者アンケートでも「家や地域でのあいさつができています」と肯定的な答えが92%であった。児童会が中心となってあいさつに関する取組を行っており、登校班でも班長から率先して元気なあいさつをする班が多くなってきている。しかし、地域の方から「あいさつをしても返してくれない」「あいさつの声に元気が感じられない」といった声も届いている。学校だけでなく地域の方々にもしっかりとあいさつができるように、子どもたち自身から全校に働きかけていけるよう支援していきたい。

(3) 体づくり部会						
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ
自分の健康について考え行動する子の育成	望ましい生活習慣の育成	・我が家のスマートルールを守れたか長期休み明け後にチェックさせ、適切な利用について意識づける。	(取組指標)・・・教員 インターネット、メール、SNSなどのルールを守らせるなど、情報モラルを理解させる取組を行う。	ネットのルールを守らせるなど情報モラルに関する取組みが	A+Bが 83%	
			(目標指標) A+Bの合計が80%	A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。		
			(成果指標)・・・児童 インターネット、メール、SNSなどのルールを意識して守ることができる。	就寝時刻の1時間前にはネット利用をやめることが		
	(目標指標) A+Bの合計が80%以上	A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。				
	(満足度指標)・・・保護者 あなたのお子さんは、インターネット、メール、SNSなどのルールを守っている。	お子さんは、就寝時刻の1時間前にはネット利用をやめることが	A+Bが 62%			
	(目標指標) A+Bの合計が80%以上	A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。				
進んで体を動かす子の育成	・身体を動かす遊びや運動をするよう積極的に声掛ける。 ・委員会(総務・体育等)活動で、楽しく運動できる企画を設ける。	(取組指標)・・・児童 進んで体を動かすことができる。	休み時間に、体を動かす遊びや運動ができましたか。	A+Bが 96%		
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上			A できた B どちらかといえばできた C どちらかといえばできなかった D できなかった

(4) 開かれた学校						
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ
開かれた学校づくり	学校からの積極的な情報発信	学校公開日や、学校だより、学年だより、連絡メールなどを通して開かれた学校づくりに努める。	(成果指標)・・・保護者 学校参観日や、学校だより、学年だより、連絡メール、ホームページなどを通して学校の様子がよく分かる。	学校参観日や、学校だより、ホームページ、学年だより、連絡メールなどを通して学校の様子を知ることが	A+Bが 98%	
			(目標指標) A+Bの合計が90%以上	A できた B どちらかといえばできた C どちらかといえばできなかった D できなかった		

【成果と課題】

(望ましい生活習慣の育成)

「就寝時刻の1時間前にネット利用をやめる」という目標に対して、児童の肯定的回答は77%であった。しかし、保護者の肯定的評価は62%と児童の評価より低く出ているため、家庭でのルールが十分に守られているとはいえないようだ。学校では、夏休み健康カードに「ねる1時間前にはネットをやめた」というチェック項目を入れたり、「アウトメディアピンゴ」でメディア以外の遊びの時間を増やす取組を行ったりして、児童への意識付けを図った。肯定的回答が昨年度に比べて増えているため、生活が乱れやすい冬休みにも自分のネット利用を振り返る機会を設け、生活習慣の向上につなげていきたい。また、家庭での協力を得るために、2学期末保護者会でネットモラルに関する親子研修と保護者を対象とする講演会を行う。情報モラルや学力とネットの関係について学び、生活に生かしてほしいと考えている。

(進んで体を動かす子の育成)

「休み時間に体を動かす遊びや運動ができたか」に対し、肯定的回答は96%と多かった。三方小の児童は、10分の休み時間でも外に出て遊ぶ児童が多く、異学年が交流して遊ぶ姿もよく見られる。また、体育委員会がドッジボール大会などの企画をし、体を動かして遊ぶ機会を設けている。これら外で遊べないことも増えるが、大縄跳びや単縄跳びなど屋内で身体を動かして遊べる環境を作り、児童が進んで運動できるようにしていきたい。

(学校からの積極的な情報発信)

保護者の肯定的な回答が98%と非常に高く、目標を達成することができた。学校公開日や各種たより、ホームページやブログなどを通して、学校の様子を保護者に十分知らせることができた。ここ数年は、新型コロナウイルス感染防止のため学校参観日が実施できなかつたり、制限を加えることが多くあった。ただ本年度は三方小と明倫小の統合初年度であり、子どもの様子や学校の様子に関心を持っている保護者も多くおり、感染対策を講じながら計画通り学校公開日を実施した。保護者の出席率も高く、祖父母の参観も多くあった。保護者が参観できない「感謝のつどい」は、期間限定でYou Tubeで家庭に発信することができた。保護者からは、「お忙しいと思いますがもう少し頻繁にブログを更新してもらえるとありがたいです」と要望があがっていた。今までのブログは学校行事中心に更新していたが、今後は学級の活動や日々の学校生活の様子についても紹介できるようにしていきたい。また今後はスマホ世代の保護者に対応した情報発信の在り方についても検討していきたい。